温暖化で最初に沈む国

地球上で最初に海に沈む国、ツバル。すでに、地球温暖化の影響を顕著に受けている国です。

第２回MELON環境市民講座は７月22日(土)気仙沼市で、写真家であり国際NGO Tuvalu Overview日本事務局代表である遠藤秀一氏の講演を行いました。さまざまな方のご尽力があり、定員100名を超える123名の、幅広い年齢層の方にご参加いただきました。

ツバルは９つの珊瑚島から成る小さな国で、自然と共に生きる暮らしを続けてきた国です。その風景と、人々の自由で美しい姿が遠藤秀一氏が撮影した写真やビデオで映し出されました。一方、平均海抜が１ｍしかないため、満潮時に島の内部から海水がにじみ出たり、波が押し寄せたりすることによって植物への塩害が発生しています。その様子が言葉だけではなく映像で、被害の深刻さをより一層強く伝えていました。

最後には、彼らの生活を奪わないために自分達にはなにができるのかを、温暖化の仕組みをわかりやすく説明しながら、身近なペットボトルを例にお話がありました。参加者からは「津波の映像、自然の美しさに感動しました」「ツバルの人のメッセージが印象的だった」との感想が寄せられ、ツバル支援活動の寄付にもご協力いただきました。

最前列にござを敷いて「席」ができました

MELON20周年をめざせ！
50人リレートーク

第18回目の執筆者
木村成忠さん
（石巻若宮丸漂流民の会）
『江戸の胃袋を満たした仙台米』

私は二十数年前から、若宮丸という江戸時代の船の遭難・漂流事件に関心をもち文献を当たったり、現地に赴き調べたりしています。

かいつまんであらましを紹介しますと…

今から214年前の寛政五年11月下旬、石巻湊から仙台藩の米と材木を積んで江戸に向かった千石船若宮丸がいわき沖で嵐に巻き込まれ遭難。乗組員16人は厳寒の海を半年間も漂流し、北太平洋のロシア領の島に漂着します。その後異郷の地ロシアでそれぞれが数奇な運命をたどっていきます。遭難から11年後の文化元（1804）年、一艘のロシア船が長崎湾に現れます。船にはロシアから送還された４人の若宮丸漂流民が乗っていました。この４人の漂流民は「初めて世界一周した日本人」となるのですが…。

さて、当時江戸は人口100万の世界一の都市。その主食の米の最大の供給地が仙台藩でした。多い年で30万石もの米を運び販売しています。米の販売は仙台藩の最重要財源でした。成人１人１年に食べる米の量が１石（150㎏）と言われていた頃、実に江戸で消費する米の３分の１を仙台藩がまかなっていたのです。しかし、豊作の年ばかりではありません。漂流事件の前10年は浅間山の大噴火の影響などがあり、全国的に大凶作、大飢饉の年が続いていました。それが寛政年間に入り、ようやく豊作に転じます。江戸では仙台米を待ち望んでいました。若宮丸はその年の新米を運んで江戸へ。天候を読むのに長けた船乗りたちが嵐を避けられなかったのはなぜか。江戸っ子たちの顔が浮かんできて、はやる気持ちを押さえきれなかったのだろうか。謎である。

＊次回執筆者紹介＊
佐々木眞奈美さん（フリーアナウンサー）
TBCラジオ午前ワイド番組「COLORS」木曜日担当。パーソナリティ、歌手、声優などの他、さまざまな講演活動も行っている。また、薬剤師でもある。